



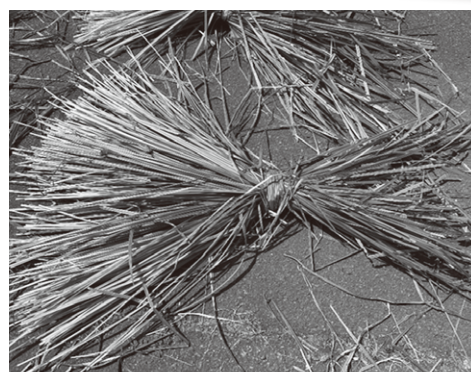
鳥居は高さがあるので、取り付けにトラックの荷台を使い注意しながらの作業です



編んだしめ縄に吊るすふさ部分は、光夫さんの手で仕上げてもらいます

孫(左)と祖父(右)での共同作業も。3世代が作業に関わっています

スゲ刈りは早朝からの作業！
いっづくタイムは大切!!



原材料の「スゲ」を刈り取り、束ねたもの



今年は9/5(土)、6(日)が望来のお祭りだよ。青々としたしめ縄が見られるのはこの時期だけ!

泉光夫さん

望来神社



大しめ縄を作り奉納する会

スゲ刈りから！4代続く手作りのしめ縄への願い

事務局の渡部賢二さんも「スゲの調達も」苦勞。編む時はとにかく人手がほしい。地域おこし協力隊や地域の若者にも参加してもらい、こうしてしめ縄が作られるのかという貴重な体験をしてほしい。参加してくれる方がいたら大歓迎!とのこと。私にもお声がかかりまして、ここ2年ほど作業に参加しています! 興味のある方は、やぎゆきまで「一報くださいませ!」

以来、泉家を中心となり、地域の協力も得ながら毎年新しい大しめ縄が奉納されてきましたが、スゲ不足などにより数年中断されていた時期もありました。その後、これを復活させ後世へと引き継ぐため、平成15年に「望来神社に大しめ縄を作り奉納する会」が発足。毎年7月末にスゲを刈り取り、乾燥させ、しめ縄を編み、9月の神社祭の前に鳥居へ奉納する活動が、今も地域の皆さんの手によって受け継がれています。

厚田集落支援員やぎゆきです! 今回ご紹介するのは、「望来神社に大しめ縄を作り奉納する会」。望来の泉光夫さんにお話を伺いました。

望来神社のしめ縄を作り始めたのは、なんと101年前の大正14年にまでさかのぼります。望来神社が現在の位置に遷座(移設)された年、父・友次郎さんが中心となり、神社にほど近い泉家の土地にあったスゲを材料に、しめ縄を作り奉納したのがきっかけの一つでした。



厚田集落支援員
八木沼幸恵さん

プロフィール ■ 厚田出身。実家は農家。厚田の人や環境、自然に育ててもらった! と思っていて、「厚田のためなら」と令和4年度から厚田集落支援員として活動中。趣味は多趣味。英語は話せるけど計算は苦手。SNSでは厚田の情報を発信しています♪

広告

広告